

放送大学と

歩む

— 学びと地域貢献 —



放送大学 愛媛学習センター

愛媛学習センターの地域への貢献

愛媛学習センター所長 村上 研二

放送大学は通信制の大学ではありませんが、全都道府県の五七か所にキャンパス（学習センターとサテライトスペース）を有しています。キャンパスとは一義的には大学の敷地や建物を指しますが、そこにある施設・設備は勿論、そこに集う人々（学生や教職員）やその活動（教育、研究、社会貢献、管理運営）、更にはその活動によって生み出されるアカデミックな雰囲気まで含めて指すことが多いようです。国内にこれだけ広範囲にキャンパスを展開している大学は他にありません。各キャンパスには、現在約九万人の学生が在籍し、毎年約五、〇〇〇人の卒業生・修了生を輩出しています。これまでに一五〇万人以上の学生が学び、学位を取得した卒業生・修了生は一〇万人近くにもなります。ところで、現在、日本では急激な人口減少と首都圏一極集中により、地方の衰退が進行しつつあります。国や地方自治体は「地方創生」や「地方版総合戦略」

の下、多額の補助金や特区制度等を設け、この地方衰退の傾向に歯止めをかけようとしています。一方、放送大学ではこれらの方策とは別の立場から、平成二十九年度学長裁量経費（学習センター支援）に「学習センターの地域リーダー育成支援と地域貢献」という支援分野を設定し、全国にキャンパスを展開する放送大学の強みとそこで学ぶ（学んだ）一五〇万人を超える学生が有する情熱と能力を活かす「学習センターとしての地域貢献策」の提案を各学習センターに募りました。

愛媛学習センターではこれに応じて、「地域貢献や地域支援に資する放送大学学生による『学びの体験報告』」と題するプロジェクト名で、次の二つの試みを提案しました。

①地域貢献に関わっている（関わった）学生からの体験報告の場、ならびに学生と市民との情報交換の場を設け、放送大学で学ぶ意義とそれを実際に地域貢献に活用している状況を広く市民に広報する（平成三十年二月大洲市にて開催予定）。

②上記の報告会・情報交換会に出席できなかった

方々にも放送大学学生による地域貢献活動の状況を
知ってもらうため、その内容を冊子にまとめる（第一
部 学びと地域貢献）。また、放送大学で学ぶ学生の
体験（学位取得、資格への挑戦、学びの方法と内容、
サークル活動等）はこれから地域貢献を行おうとする
方々への貴重な情報となることから、これについても
冊子にまとめる（第二部 放送大学での学び）。

このようにして発刊したのが本誌です。本誌は、地
域貢献に果たす放送大学の役割を広く県内に広報する
ため、県内およそ五〇か所に設置した専用パンフレッ
トスタンドにて配架・配付致します。

地域貢献の内容は多岐にわたります。参加形態、役
割、参加頻度なども様々です。極端な言い方をすれば、
町内会役員なども近所付き合いが希薄になりつつある
中で住民の親睦・融和に貢献するという意味で地域貢
献に含まれるのかも知れません。放送大学愛媛学習セ
ンターには現在一、〇〇〇人以上の学生さんが在籍し
ていますが、地域貢献をこのように広く捉えれば、愛
媛学習センターに在籍している学生の多くが地域貢献
に関係していることとなります。だとすれば、現在愛

媛学習センターで行っている色々な分野の面接授業や
公開講演会等が学生の皆さんの行っている地域貢献に
どのように役立っているのか、あるいは逆に、学生の
皆さんの行っている地域貢献に役立つには、愛媛学習
センターとしてどのような面接授業や公開講演会等の
事業を計画すればよいのかなど、今後検討すべきこと
は多くあることとなります。

地域貢献にはこれに携わる方々の「熱い情熱」が必
要ですが、責任をもつてこれを実施・継続するには「学
問的な裏づけ」が必要です。放送大学での学びがその
「裏づけ」となることを願っています。

本事業は平成二十九年度学長裁量経費（学習セン
ター支援）の支援によるものです。今回の支援に厚く
感謝致します。

目次

第一部 学びと地域貢献

国際交流に関する活動

英語サークルに学ぶこと

全科履修生 和田 弘幸……………6

社会福祉に関する活動

地域福祉ははじめの一步に

修士科目生 奥村 泰之……………8

文化に関する活動

私が出会えた素敵なもの

全科履修生 岡田 夕子……………9
全科履修生 樫元 朗……………12

子どもや教育に関する活動

生きとし生けるもの全てが学び

全科履修生 八島 美津……………14

第二部 放送大学での学び

学びの広がり

放送大学で張りのあるセカンドライフ

全科履修生 鈴木 東義……………18

愛媛との出会い

夢の扉を開ける一步

全科履修生 北原 雅人……………20

放送大学という選択肢

心理を学びたくて

全科履修生 谷脇 雅菜……………22
放送大学入学の動機と魅力
全科履修生 二宮 秀司……………23

全コースを制覇して

放送大学を修学して思うこと

全科履修生 稲谷 吉彦……………24

※投稿者の学生種別は原稿執筆時点のものです

継続は力なり

放送大学と私 全科履修生 麻生美登里……26

学生のみなさんに接して

学習センターの窓から 愛媛学習センター事務職員 兒玉 健志……27

【特別寄稿】

学友会にぎたつ会会報から

動物の「ことば」と人間のことば 全科履修生 樫元 朗……28

第三部 放送大学に関する情報

放送大学Q&A

……31

放送大学のあらまし

放送大学とは ……33

学生の種類とコース ……33

学習システム ……34

愛媛学習センターについて

主な業務 ……35

スタッフ ……36

施設 ……37

修学上の特別措置 ……38

単位認定試験 ……38

面接授業・公開講演会 ……39

学生団体（サークル）の活動 ……40

愛媛学習センターホームページ ……40

見学案内 ……40

交通アクセス ……40

第一部 学びと地域貢献

第一部では、放送大学での学びを地域貢献に活かして活動している学生を紹介しています。

様々な地域貢献活動の中から、

- 国際交流に関する活動
- 社会福祉に関する活動
- 文化に関する活動
- 子どもや教育に関する活動

にかかわる学生の体験記をご覧ください。

国際交流に関する活動

英語サークルに学ぶこと

全科履修生 人間と文化コース 和田 弘幸

放送大学英語サークルとの出会いは二十年前にさかのぼる。四十二歳から英語を学び始め、当時英語まっしぐらの私は、何でも吸収とばかりに放送大学に入學し、さっそく英語サークルに入部した。そのときのサークル活動は、いわゆる学校の授業のような感じでなんとなく学生に戻った気分はあったが、しかし英語は聞いたり話したり、いわゆる会話が一番大事を身上としていた私には、一抹の不安もあった。

その後サークルを任された私は、さっそく「会話」を中心に切り替えることにした。英語サークル恒例の「三分スピーチ」の始まりである。各自が三分以内での内容は自由「anything will do」例えば先週○○へ行ったとか、○○を食べに行ったとか身近な日常生活を、英語混じりの日本語^ででの発表で、人前で話すこ

とに意義がある。初めのうちは、慣れないことで戸惑いもあり、メモを読む人も多かったが、二十年経った今では、確実に「日本語混じりの英語スピーチ」に進化している。サークル会員の英語のレベルはまちまちで、能力差は当然あるが、全然問題はない。基本的には中学生英語の域を超えていない「communication English」の精神で今までもこれからも変わらず同じペースで進めていきたい。

最近では社会貢献の意味合いもあり、松山城ガイド（英語）にも軸足を置いている。松山に来た外国人に対しての「おもてなし精神」をベースに観光案内、特に松山城を中心に各所の説明・案内の練習・勉強会も、月二回の例会に行っている。また、春の花見の季節には、外国人も交えて松山城頂上公園において、花見会も楽しんでいる。こうした地道な努力が、将来少しでも社会貢献につながれば、自分自身を磨くことにもなるし、人生の半ばで英語を思いつき勉強してきた甲斐があるかなと思う。



英語で観光ガイドを行った観光客と（松山城）

社会福祉に関する活動

地域福祉はじめの一歩に

修士科目生 奥村 泰之

私は、放送大学に学んで十一年目になります。六十二歳定年の三年前の発起というか、五十代最後の挑戦、定年までに修士の学位を取得したいというおぼろげな思いだけで門をたたき、平成十九年に大学院修士課程の「政策経営プログラム」に入学しました。企業風土について専門的・体系的に学びたい、特に企業文化や一〇〇年続く老舗企業を対象に研究したいという想いが端緒でした。

指導教授からは「二年を目標として修士論文を仕上げられるように」と、京都学習センターで開催されるゼミ勉強会や修士論文の中間発表会などを通して、禅師から警策を振るわれるかのごとく、時にビシッと気圧される言葉に励まされたものでした。

研究テーマは、「出光佐三の『人間尊重』主義の経

営と今日の経営理念」。出光興産創業者の特異な経営思想が現今においても生かされているか、と試みたもの。昨今『海賊と呼ばれた男』（百田尚樹著）のモデルとして脚光を浴びていますが、掘り起こしていけばいくほど興味深い鉱脈にあたるような発見がありますし、人間的魅力に富んだ人柄に嵌っていったように思います。

大学地下書庫に眠る著作作品や関連資料、判例データベースによる当時の判例などが研究の手助けになりました。興味を惹かれたのは、一九五三年の「日章丸事件」。イラン原油買い付けとその後起こる裁判の経緯でした。英国メジャーとその原油の帰属をめぐる攻防は実に圧巻でした。また、哲学者・鈴木大拙の存在や幅広い人脈が彼の経営思想に影響を与え、カリスマ性を高めたこととは無縁ではなかったように思います。

定年退職後、社会福祉法人の関連施設で勤務していますが、社会福祉の何たるかも解らず、周囲はさぞ迷惑な話。「あの人、何者？」と目に映っていたに違いありません。すがるような気持ちで修士科目生として

文化に関する活動

この辺りの知識を吸収せねば、と「福祉政策Ⅰ、Ⅱ」「社会福祉研究」「障害児・障害者心理学特論」などを履修し専門用語を理解することから始めました。

昨年(平成二十八年)十二月、奇しくも地域の民生・児童委員を拝命いたしました。これまで地域とのかわりが乏しく全くの門外漢でした。地域に密着した活動は、月一回の会議や人権擁護や防災に関する研究会、近くの小規模多機能事業所の運営会議等があり、それらを通し委員と協働した時間を持てるようになり輪が広がってきているようにも思います。

修士科目生として片足を突っ込んでいますが、学習センターのライブラリーは学習基地として学問の奥深い暗闇を照らす灯台のような役割として、また、福祉社会を生きる自分のプラットホームとして活用しています。

この歳になって地域に活かされてきたことを考えると、ただ単に老いさらばえるだけでなく、ささやかでも地域貢献のお手伝いをできればと願っているところです。

私が出会えた素敵なもの

全科履修生 自然と環境コース 岡田 夕子

私は、昨年の春から放送大学で二度目の大学生活をスタートしています。一度目は国立大学理学部で素晴らしい先生や個性豊かな友人達に恵まれました。そして二〇年後の今は放送大学学生です。

一度目の卒業後思うことは、「大学生活は楽しかった」ということです。数々の野外研修や友人達との交流もあります。卒業論文が一番思い出深く思います。与えられた課題をこなす中、初めてパソコンを使ってしかもネットワークを使って作業してみたり、コマンド操作で印刷などしてみたり、本題のプログラムを作ってみたり。論文の作成、発表ははじめこれら新しい出来事ばかりで新鮮であったし、それらを指導してくれる先生にはキラキラ輝くような感動をおぼえる程に尊敬です。私には全てが今でも素敵な思い出です。

卒業してしまうと、自分の知識・学力は本当に確かなものだったか?と思いました。そう思った頃、私は母となっていました。そして、幼い子供と研究室に遊びに行った時、「この子が成長すると共に一緒に学び直そうと思っています」と先生とお話ししたりしました。そして、その子はもう高校生。人生、上手くいく事ばかりでなく離れ離れですが、親子で大学生も素敵かなと思いました。なので、仕事との両立に不安もありましたが思い切って放送大学に入学しました。来年の春、息子には大学生になつてもらえるよう願っています。

現在の私の暮らしの中には、ボランティア活動があります。「何か人の役に立ちたい」と思いました。地球温暖化などで危ぶまれる自然環境を考える何かの役に立ちたいと始めたのがこどもの城のエコハウスのボランティア。科学の楽しさを体験してくれたら、もしかしたら天才博士さんになる子もいるかもしれないと思ったりしてはじめた愛媛県総合科学博物館でのボランティア。両方で体験学習等のお手伝いをしたりしています。講座や展示の下準備や工作の補助をしてい

ます。

放送大学に入学したのは、一度目の大学で中途半端になっていた博物館学に関する内容の授業を学習してみたいということもありました。なので、博物館に関する講義を受けています。そこで現実の運営にどれだけの大変さがあるか、博物館と言う施設の存在意義の大切さ等を感じました。

どちらのボランティアでも好奇心に溢れる子供達の明るい笑顔、真剣に集中する表情、元気な姿が印象的です。とても愛らしく、こちらも元気なパワーをもらうようです。楽しくボランティア活動をさせて頂いて感謝しています。博物館学だけでなく、さらに多面に学習を深めて今以上の役立ち方ができたらと思います。私は、放送大学とボランティアに出会えて良かったです。放送大学には私の興味ある事が詰まっています。ボランティアでは人の役に立つことが嬉しいです。そして、ボランティアの職員の方々と共に活動する方々は、いろいろな職種、年齢である訳ですが、共に活動し、交流する中で私に多くの共感や違ったもの見方も与えてくれて考えさせられます。貢献と言える

までの活動が出来る成熟した人物にもなれていない訳ですが、こんな私でも必要としてくれてありがたいです。

学び直しなので、放送大学では初級の基礎から始めています。その他には、興味ある哲学や文化、習ったこともない言語、学生時代に迷って選ばなかった宇宙など様々です。どれも難しくて頭を抱えています。楽しいです。学習することで、自然の神秘や偉大さ、遙かな時間の流れ、様々な文化を感じると、ひとときどこか現実を離れ、心が深呼吸できるようです。放送大学で学べる私は幸せ者です。何年か後には、夢の大学院に通えていたらなんて考えます。

放送大学は、先生方、職員の方々、学生の皆さん誰もが温かく、ときに笑い声もこぼれる素敵な場所です。新しく知ることに感動し、穏やかに心落ち着く静かな時間が流れているように思います。

ひとりでも多くの方に知ってもらえると嬉しいですよ。

ボランティアの役割と今後への期待

「○○さん今日は来ていますか？」当館では度々お客様が、目当てのボランティアスタッフを探している。それだけ存在が大きく、欠かせないのである。

博物館は敷居が高くどこか難しい印象を持つ方が多いが、そういった方との架け橋になって下さっていると日々感じる。工作の手順が分からない子供に根気強く説明する姿、展示の解説をユーモアを交えて行う姿、困っている様子の方に誰よりも早く声を掛ける姿、ボランティアの皆様と接したお客様は皆笑顔になる。そして私を含めた博物館で働く職員も、その姿に学ぶことがたくさんある。また、第三者的視点も持ち合わせている、ボランティアの皆様から時折頂くアドバイスは、職員にとって非常に重要なものとなっている。これからも新たな知識を習得して、より活躍の場を広げて頂きたいと思う。接する方を笑顔にすることはもちろん、自身が楽しんで活動して頂けることを期待している。

愛媛県総合科学博物館 山本様

私と美術館

全科履修生 人間と文化コース 檜元 朗

私は現在、愛媛県美術館でボランティア活動をしています。その内容は、「美術品」の鑑賞方法の一つである「対話型鑑賞法」において、作品のナビゲーションを行う仕事です。

美術館ボランティアになった経緯を説明します。

四年前、ミュシヤ展が愛媛県美術館でありました。かつてチェコを旅したとき、ミュシヤ美術館に行ったことがあったので、懐かしさを含め鑑賞に行きました。ここで以前同じ職場で勤務したことのある方に出会い、美術館ボランティアの勧誘を受けたのです。しかし、体育会系の私にとって、「芸術（美術）」は全くの別世界。どうしたら良いのか考えていたところ、放送大学の科目に「日本美術史」や「博物館概論」など美術に関するものを見つけました。放送大学で美術に関する勉強をしながら、実際の「美術」に触れることができれば一石二鳥と考え、「日本美術史」「博物館概論」

を選択、美術館ボランティアをすることに決めました。そして、「日本美術史」から「美」とは何か。「日本の美術品とその歴史」について学ぶことにしました。

印刷教材「日本美術史」巻頭部分に、「『美』とは『実用的である以上の何ものか』をいまだ広い意味で『美』と呼ぶとしよう。自然を巧みに再現したり日常を超えた何かを表現する試み、見る者の心を興奮させたり快くなごませる刺激……」の言葉がありました。「美」の意義について少し理解ができそうで、頑張ろうと思いました。日本の美術について知らないことが多くて、「そうなのか。そうだったのか」ということが多くありました。「日本美術史」はとても興味のある科目でしたが、試験は難しく再試験でやっと合格しました。

さて、美術館ボランティアの仕事ですが、一年間研修が必要でした。月二回、学芸員からボランティアの基本と心構え、実物の作品を前にし、「対話型鑑賞法」の意義や、作品ナビゲーターの仕事についてのレクチャーを受けました。学芸員から、「作品について深い知識が無くてはかまいません。作品をどのように見、理解し、作品を楽しんでもらうことが大切なのです」

「皆さんは、作品と鑑賞者との橋渡しをするのが仕事です」と言われました。

更に、ナビゲーションを行うにあたって、作品を鑑賞する方法として

①みる

直感を大切にしながら、作品を隅々まで観察する。

②考える

どこからそう思ったのか。自分の意見を内省する。

③話す

沸き上がった思いや疑問を他者に言葉で伝える。

④聴く

周囲の鑑賞者からの意見に耳を傾ける。

が大切であることを伝えること。分かりやすい言葉でナビゲーションを行い、「作品」を見る楽しさを理解してもらいましょう。とする指導を受けました。

研修の中に出てきた作品は、日本美術史で学んだ尾形光琳の「白梅紅梅屏風図」、徳川家康が「自分の慢心の心を戒める」ために、戦いに敗れ苦虫を噛みつぶしたような姿を描かせたとする絵、オーストリアで見つけたクリムトの「接吻」などがあり、楽しい研修でした。

そして、一年の研修を終えて、鑑賞者の前で作品についてのナビゲーションを行うこととなりました。ナビゲーションを行うにあたって大切なことは、「作品」の説明が主たる仕事ではないものの「作品」についての勉強を怠らないこと。ナビゲーターは主役にならないようにすること。と注意を受けました。しかし、初めてのナビゲーションは、長いこと人前（speech）話をしていなかったことから、どのように話をしたらいいのか、しつかり伝わるのかドキドキでした。そして緊張のあまり、最後に紹介する作品名と作者の名前がなかなか出てこなかったり大変でした。

研修を受けて三年になります。先輩方のナビゲーションを見取り稽古しながら、「まだまだ勉強が足りない。鑑賞者の皆さんに楽しんでもらえるナビゲーションをしなくては…」と思っています。

最後に、教科書「博物館概論」に良い言葉を見つけました。

「聞いたことは忘れがちです。見たことは記憶に残ります。自ら行動したことは理解が深まります」（ボストン子ども博物館初代館長 マイケル・スポック）

この言葉を作品ナビゲーターとしての「座右の銘」とし、頑張ろうと思っています。

ボランティアの役割と今後への期待

愛媛県美術館作品ガイドボランティアは平成十七年にスタートし、「対話型鑑賞」と呼ばれる鑑賞教育を専門に行っている集団です。この「対話型鑑賞」は作品の鑑賞力だけでなく、観察力・批判的思考能力・言語能力・コミュニケーション能力といった、総合的な「生きる力」の育成にアプローチしています。美術館では現在一期生〜六期生まで総勢五〇名のスタッフが展示室や時には学校の教室等で、この「対話型鑑賞」を使ってトライ&エラーを繰り返しながら、日々、鑑賞者のみなさんとともに、「学びの楽しさ」を探求しています。愛媛県美術館作品ガイドボランティアの言葉は、わかった!と思ったからお終いだ!! これからも、「わからない↓だからつまらない」ではなく、「わからない↓だから興味湧く」を目指して皆で活動を続けていきたいと思えます。愛媛県美術館 鈴木様

子どもや教育に関する活動

生きとし生けるもの全てが学び

全科履修生 心理と教育コース 八島 美聿

教わる者は教えてくださる方を「先生」と呼ぶ。そして、尊敬する意味で「師を仰ぐ」と言う。高い位にいる師に少しでも追い付こうと上を目指す。目的達成の為に全力を尽くす場合、食い入るように師の目を見、少しも聞き逃すまいと耳を澄ませ、動作を模倣し、自分のものにしよとうとする。「身に付ける」はまだ過程、「その道のプロ」になり更に磨きをかけ「押しも押されもせぬ」になれば頂点。後世に継承し「成就」というところだろうか。

常に何か行動を起こし、家族に負担をかけてばかりいる。そんな私が放送大学の学業を目指したのが二〇年前。執筆、懸賞小説に応募、毎回涙をのむ。合間に短編を書き、更に隙間に勉強時間を入れた。そんな人なので、現在もまだ在籍している。

学びとは何だろう。学問のみならず、人として成長する過程で必要な栄養のようなもの。はたまた、流行りの生涯学習とやらか。人は死ぬまで生きる(当たり前)、生きとし生けるもの、全てが学びなのだ。

「フリースペース キッズスクエアおおず学童保育」大洲市にて、キッズスクエア松山と同様の学童保育をボランティアで行っている。小学校放課後児童クラブでは、全学年を対象にしているにもかかわらず、低学年のみ預かるクラブ運営であるのが現状。その他の学年や他エリアの学童で自宅での保育が不可能である家庭を対象に、大洲市新谷での学童保育を実施。可能な限り低額にするには、家賃不要・人件費削減・おやつ配給なし(提供歓迎)、送迎なし…などで日々行えると想定。勿論、寄付、お菓子・学習材料などの提供歓迎、ボランティアアスタツフも常時募集。不用品バザー、野外活動なども実施。

前記、ボランティアは向学心ある女性七人で形成。教員、保育士、カウンセラーなど資格は勿論のこと、放送大学、愛大、松大、東雲大などで教育科目受講、子育て支援員資格を全員取得するなど、大学での社会

人教育を大いに利用している。有職であることから、^{*}上級を目指す為には、放送大学の時間に左右されない学び方なくしては有り得ない。学びを個々とする、グループで励まし合う、次へ繋ぐ：インフィニティ？メビウス？大縄跳び？ 学びは無限にあり自由選択、止まっても途中からまた始めても良い、これが放送大学の魅力だ。

学問とは学び習うこと。学校へ通う、先生に教えを乞う、本を読む、新しい知識を習得。身につけた知識。理論に基づいて体系づけられた知識と研究方法の総称。学ぶ為に問い続ける、自分に。自ら学ぶということ、これが一番大切だと思う。今もこうして考えながら文字を打つ。あれこれと頭の中を整理しながらまとめようとする。考えたり論じたりして最終的な判断をまとめることを結論という。然し、私の「学ぶ」に終わりはない。追記するが、私の専門は「女性学」、なんと難しい学問である。

*教員免許更新、保育士の幼稚園教諭習得、司書教諭、準看の正看習得、心理学・カウンセリング学の認定心理士等等など。

ボランティアの役割と今後への期待

私たちが現在生活している社会は、人口減少の影響から生活を支援する担い手が減少してきています。また、人々の生き方は多様化しており、求めている支援も多様化してきています。例えば、買い物不便の解消については、ある人は買物代行で、ある人は移動支援で、など様々です。一方でコミュニティの弱体化により生活支援を公に求める傾向があります。公による支援は、同じ課題を持つ人たちの支援はできても、個々の顔を見るような支援は不得手です。近年、人の顔を見た支援内容を自分たちで考え、実践しながら、地域課題を解決していくボランティア活動が生まれてきました。この活動の社会的価値はそこにあるといえます。さらに、その価値を発揮していくためには、地域ニーズの把握、その解決のための分析、実践手法の開発、そして実践へ、といったステップを踏まえ、みんなで解決していくような協働が必要で、それらの実践の場の一つとして放送大学があります。

八島美津氏は、まさしくその放送大学において、学

び、分析し、仲間を集め、より良い形で実践されていきます。今後、学びを深化させ、持続的な活動として昇華することを祈念しています。

愛媛大学社会連携推進機構 前田様



第二部 放送大学での学び

第二部では、多様な動機で放送大学に入学し、学びを楽しんでいる学生、学修を重ねてなお新たなゴールを指している学生など、それぞれの学生生活を綴った文章を紹介します。皆様の今後の学びの参考になりますようお願いしています。

学びの広がり

放送大学で張りのあるセカンドライフ

全科履修生 自然と環境コース 鈴木 東義

私は定年退職を機に放送大学へ入学し、現在六年生です。会社員時代、高機能性ポリエステル繊維の研究開発という狭い世界で新素材競争に明け暮れてきた反動か、定年後は、宇宙、医療、生物、哲学など広い世界を知り、同時に憧れだった理学系科目の物理と数学をじっくり勉強したいという願望が自然に湧いてきたのが入学の動機でした。こうして、現在、放送授業、面接授業、公開講演会を受講しています。

放送授業は豊富な科目数と日本最高級の教授陣が魅力であり、一般教養科目と共に、物理・数学の専門科目に挑戦しています。当初、「空間とベクトル」の授業で、提出型問題が一問も解けないという窮地に直面し、思い余って学習センターに相談した結果、放送担当教員への「質問箱」や学習センター客員教員による

「学習相談」の制度を知り、紹介いただいた愛媛大学の先生の助力を得て、六〇点ギリギリながら合格できました。この経験が力になって、その後も前向きな気持ちで学習を続けています。

私にとって放送授業に勝るとも劣らず面白く有意義なのが面接授業（二日間の集中授業）と公開講演会（年間一八回開催、二演題／回）です。一回完結型の具体的なテーマが多く、広く多くを学びたい私にぴったりです。愛媛大学を中心に、松山大学、松山東雲短期大学、東温高校、放送大学（本部）などの、第一線で研究や仕事に打ち込んでおられる錚々たる先生方から各専門分野の話を、授業形式で、直接、熱く、分かり易く語っていただける機会を貴重なものを感じています。なかでも、放送授業では得られない醍醐味として、自由闊達な質疑応答、実習、見学、交流が深まるグループ学習があります。私にとって特に印象に残る面接授業として、「木・林・森」の授業の愛媛大学構内のアラカシ（ドングリ）、クスノキ、ケヤキなどの野外観察、「愛媛のライフサイエンス」の愛媛県産の各種蜜柑のクエン酸濃度・糖度の化学分析実験、「フィジカルコ

ンピューティング」の動く作品作り（私の作品：スイーツを押すと二個のLEDが交互に点滅する一分間タイマー）があります。また、公開講演会も学習センターの村上所長による「人工知能」のシリーズなど見逃せないもの揃いです。

放送大学の授業では、毎回、驚きと新しい発見があり、私の知的好奇心を刺激し、満たしてくれます。公開講演会で、エリク・H・エリクソンの「我々は長く生きる程に何と僅かなことしか知らないのかと教えられる。成長して年を重ねるといことは面白い冒険であり、驚きに満ちている」という言葉に出会い、感動を覚えました。放送大学は私のセカンドライフに豊かな、張りを与えてくれます。

最後に、「学びと地域貢献」について、放送大学で学習を重ね、視野が広がり、知識が増えるに伴い、興味の対象が指数関数的に拡大していると感じられることから、近い将来、喜んで取り組める地域貢献対象が見つけれそうな気がしています。



面接授業「愛媛のライフサイエンス3」

愛媛との出会い

夢の扉を開ける一歩

全科履修生 人間と文化コース 北原 雅人

私が放送大学を知り入学するきっかけとなったのは、CS・ケーブルテレビ再配信による全国放送が始まったCMを目にし、かつ自宅にケーブルテレビの受信チューナーを導入したことでした。一九九九年、大阪学習センター所属の選科履修生として入学した当初は、放送大学で卒業するということを考えておらず、金融・経済系の科目に興味があり、当時開講していた『金融論(99)』とニーズとシリーズが合致したことで入学したという、現在からすれば軽い気持ちでした。初めて目にした印刷教材や通信指導問題に感激して、早速に通信指導問題を解答した事は今も記憶にあります。また、通学制と同じく、教室で先生の講義を受講する面接授業があることや全国各地に学習センターがあることを知り、興味ある分野の面接授業があ

れば、全国いろいろな学習センターを回り、受講しました。ただ、学習センターは面接授業と単位認定試験での所定の受験時間以外は行かず、今みたいに長くつき合う学友はいませんでした。

愛媛学習センターへは、二〇〇二年夏の面接授業『日米ベンチャービジネス論』受講で初めて来ました。当時、愛媛学習センターは愛媛大学附属図書館の中にあり、非常に薄暗い建物でした。その講義を担当された水口和壽先生との出会いでした。これが今ある私の礎です。講義中、先生が「マーケティングの四つのP」のことを受講生に質問され、私がすらすらと答えたとはいえ今も記憶にあります。

これ以来、先生と意気投合し、現在は公開講演会の名称になっている学習指導や愛媛大学で当時コーディネートターをされていた『創業セミナー』などにも参加しました。それらがきっかけで、所属を大阪学習センターから愛媛学習センターへ移籍するとともに、この一五年の間に、「イノベーション」・「企業倫理と企業の社会的責任」・「技術と経営」など私の仕事の中で関係しているものから「大学公開講座と生涯学習」まで

学んだ分野が拡大しました。

また、学友会にぎたつ会や愛媛同窓会での行事、客員教員による公開講演会、年二回の学習センター外で開催される特別講演会・情報交換会、そして、学位記授与式：入学者のつどいなどに参加し、それらを通じ、知見と学友の幅などを拡げていきました。現在では大阪側にも学友が出来ました。ある時、学友から手話を知る機会があり、「手話で学歌を歌いたい」という思いから、歌詞の意味を自分なりに理解して放送大学学歌を手話で歌うことが出来るようになりました。

この放送大学で学ばれている、またはこれから入学を検討される皆さんは、学位取得・職務知識の拡大向上・生涯学習など目的やニーズ、学習に充当できる時間や条件が各々異なっていると思われれます。また、愛媛学習センターは県庁所在地の松山市に所在するため、お住まいの地域によっては片道四〇から五〇km、場合によっては一〇〇km近くの移動となり、ためらう事もあるかもしれません。しかし、「折角だし行ってみよう」という小さな気持ちを持って、その一歩を踏み出して、「夢の扉」を開いてみてはいかがでしょう

か？ 学習センターの視聴学習・図書室を見たり、一般の方も参加できる、愛媛学習センター客員教員による公開講演会などに参加して、それらが新たな学びのきっかけとなり、やがて未来の自分につながることを私は願っています。



公開講演会「機械は『考える』ことができるか」

放送大学という選択肢

心理を学びたくて

全科履修生 心理と教育コース 谷脇 雅菜

私は平成二十九年に高校を卒業して放送大学に入學しました。小さい頃から人の心について興味があり、関連した本を読んできました。高校生になって自分でも解決できない悩みができ、そればかり考える日々が続きました。どうにかできないかと、あらゆる心理状態について調べていると、心はこんなにも複雑で奥深いものだとなりました。悩みを早く解決したい気持ちが強くなりましたが、心理学という分野を広く知りたいたいという思いも持つようになりました。しかし私は体が不自由なため、県外の心理学部がある大学に行くことは出来ず県内でさえ学校生活を送るのは大変だろうと感じられました。

高校までは支援の先生に付けてもらいましたが、大学では母がずっと付いていなくてはならず、母も自分

の用事が出来ません。そうして大学のことを考えている時に放送大学の存在を知り、心理がすべて身体にも負担なく過ごせる場所はここだと思い入学を決意しました。

普段はテレビやラジオ、パソコンを使って授業が聞けるため私にとつて合ったやり方でした。また面接授業といつて、実際に学習センターで講義を受けることも出来ます。放送大学の方も気にかけてくださり、最初に科目を多く選択するとしんどいかもかもしれないと言ってもらいました。

今、高校生の時にあつた悩みは小さくなって当時のような苦しさは無くなりました。自分の心の問題によつて調べ始めたことですが、心理学を学びたい気持ちはまだまだたくさんあります。父や親戚の人に心理学のことを話すと、人との対応の仕方を教えてほしいと言われます。まさか対応の仕方に困っていると思わなかつたので、心の悩みは表に出さなだけで、皆何かしら抱えていると思いました。

私は将来心理カウンセラーになりたいと思つています。そのために必要な資格を取得したり、心理に関係

する本を読んだりしないといけません。また、高校の先生に心配された、人との関わりが少なくなることに ついても気をつけたいと思います。入学したばかりですが、しっかりと卒業できるように日々頑張っています。

放送大学入学の動機と魅力

全科履修生 社会と産業コース 一宮 秀司

私は、放送大学に入学して一年となりますが、改めて入学して良かったと思います。その理由は多くの魅力が現実の効果として現れているからです。その魅力と効果について説明したいと思います。

魅力① 学習センターが近くにあることです。

転勤族にとって、どこへ転勤しても全国各地に学習センターが存在するのは不明な点などは事務局で確認できるなど心強いとともに、学生交流スペースでは同じ志のある仲間（人生の先輩）からもレポート提出や単位認定試験の要領をはじめ研修会など勉学以外の学

びを得ることは充実感をもたらしてくれます。特に、自分より人生の先輩からのアドバイスは今後の学生生活のみならず仕事や家庭生活を含め多くの教訓を得ることができました。

魅力② 単位認定試験を受けやすいことです。

理由の第一として単位認定試験の会場が全国にあるという点です。私が入学を考えていた大学では試験会場が当大学以外には全国に数か所しかなく、地方出身の私が県外で受験するには宿泊費をはじめとして交通費などの出費が必要となると、日帰りでは難しいため仕事においても休暇等の処置が必要となる場合も出てきます。それを考えると全国の都道府県に試験会場があるということは大きな負担軽減になります。

魅力③ 充実した教材・設備

やはり放送大学は、その名のとおり放送の大学なので、放送教材が充実しているという点があります。魅力①で挙げた魅力の学習センターにおいて放送及び映像の可搬型記憶媒体を借りることができるので、自宅にて時間や曜日を問わずに自分のタイミングで映像による講義を受けることができます。

以上の魅力の他にも大学にある図書室を利用できるなど学ぶには最高の環境であります。これから学びたいと考えている方、どの大学を選ぶようか迷っている方は是非、自身の体験からも多くの魅力と学びがある放送大学への門を叩かれることを希望します。



全コースを制覇して

放送大学を修学して思うこと

全科履修生 情報コース 稲谷 吉彦

私は、放送大学に一九九八年四月に入学した。月日の経つのは早いもので今年は学生生活二〇年目という節目の年でもある。また、喜寿を迎えることになった。ここで、この学生生活を振り返ってみたいと思う。

入学の動機は、会社の定年を前にして今後の生活をどう送るかということであった。約四〇年のサラリーマン生活を、一つの企業で働き通したが、今までの知識・教養の幅の狭さに気が付いた。そこで、勧誘された放送大学に入学した。

学習をすればするほど学習の楽しさを知った。また、単位認定試験を受けることは、忘れていた受験の緊張感もあったがそのため、集中力ができ勉強には良かったともいえる。また、単位が貯まるにつれ卒業を意識するようになった。初めての卒業の記念に本部の卒業

式に友人たちと出席した。全国に多くの卒業生のいることを実感し継続の原動力になった。

ここで、今までに卒業した経過を簡単に振り返ってみる。

最初に、「産業と技術専攻」に入り、二〇〇四年三月卒業した。ここでは、自分が経験したこと以外の広い技術系の勉強ができた。次に「生活と福祉専攻」を二〇〇六年三月に卒業した。これでは、これからの生活に必要なことや、福祉に関する一般的な勉強ができて、日常の生活に役立つことが多かった。

「社会と経済専攻」は、二〇〇八年九月に卒業した。これでは、生活に直接必要な経済活動などの知識が広く学習でき、その後の生活に役立った。「人間と文化コース」は、日常の自分たちの文化や外国の知らない文化など幅広い知識がついた。「自然と環境コース」は、二〇一三年三月に卒業した。ここでは、過去の公害や今、しきりに言われている地球温暖化のことなど興味をもって学習した。おりしも二〇一一年三月には、東日本大震災が発生して、国内の原発が停止することとなり、卒業研究として、再生可能エネルギーを利用し

た太陽光発電や風力発電などについて研究した。卒業研究論文の書き方を二人の愛媛大学の教員にご指導いただいたことが特に印象に残っている。「心理と教育コース」は、二〇一五年三月に卒業した。このコースでは、心理学の基本や教育問題の学習が参考になった。これから六専攻・コースの卒業により、愛媛学習センター初の「名誉学生」の榮譽をいただいた。また、学友会（にぎたつ会長）の経験・その他サークルを通じて多くの皆さんと交流できることは、私の宝物である。

その後、二〇一五年一〇月からは、全科履修生として「情報コース」に入学している。入学の時点で一三単位を取得している。今後は、名誉学生の特典も利用しながら生涯学習を目指して、インターネット配信を利用した幅広い学習を重ねていきたいと思っている。最近では、地域の町内会（町内会副会長）の事業が忙しくなり、ゆつくりできない状況である。これが放送大学卒業生として、少しでも社会に恩返しができることになれば幸いかなと思っっている。

継続は力なり

放送大学と私

全科履修生 心理と教育コース 麻生美登里

「それでは始めてください」問題用紙を開く。
年に二度の緊張感ピークの瞬間。半年間の学びの成果を試される五〇分間。これを実感したくて「学生」してる？

思い起こせば五〇代半ば、ちよつぱり精神的・時間的ユトリができた頃、友人に誘われ入学を決心。研修室にこもり、目と耳を駆使して、テレビの画面やカセットテープに集中。帰りの電車を気にしながら通った九年半。選科に当たり、飽きないようテレビとラジオより自分の好きな興味のある科目を少しでも多く受講（私は四科目だった）。時間割表でテストの日が同じ科目も参考に（一週間に三度も四度も出かけないため）。修業年限ギリギリで無事卒業。「夢実現」に向かって張り切っていた。卒業の喜びとテスト勉強のがんば

りを綴って、愛媛新聞の「てかがみ」欄に掲載してもらった。面接授業ではホテルで泊付き。おいしい夕食と一人っきりの自由を満喫。翌日のレポート提出の辛さは忘れて。

印象に残っている授業は、音楽室で若い学生たちとトーンチャイムを演奏したり、「フランス語」では語学というより美しい画像の国の名所・旧蹟を紹介しリラクサスさせてくれたやさしい女性講師。「愛媛県の文化・文学」では、A講師の実況検分した各地方の身近な文化を、写真や句集等で丁寧にわかりやすく説明してください、知らない事の多さと知った喜びに心が充実：。

楽しい授業風景の一コマ。コマが今も鮮明に脳裏に浮かぶ。七〇代の現在、CDの資料郵送で自宅で学んでいる。理解力・記憶力が激減し、たった一科目なのに評価は「D」に!! 情けない。自己嫌悪に陥る。でも「継続は力なり」。せめて自分の足で歩いて見られて聞こえる間は、「学生証」を持ち続けたい。ボケ防止にさあー何歳まで勉強できるかなあ。

学生のみなさんに接して

学習センターの窓から

愛媛学習センター事務職員 兒玉 健志

私は、国立大学法人を定年退職し、縁あつて愛媛学習センターに勤務することになりました。退職直前の職場が附属学校園で、日常的に三歳から一八歳の子どもたちに接していましたので、最初のうちは随分戸惑つたものです。なにしろ自分の子くらいの年代から同世代、場合によっては一回り以上も上の「学生」にもの申さなければならなかつたりするのですから。

日々学生のみなさんに接していると、色んな気づきがあります。例えば放送大学への入学の動機にしても、若い頃に果たせなかつた大学卒業を目指す人もいれば、定年退職後に自分の携わつた仕事や世の中の中の役に役立つているのか実感したい、趣味として親しんだ世界を学問的に深めていきたい、また、ボランティア活動に関心があり、そのために学問的な背景を身に

つきたい。様々な動機を持つて放送大学の門をくぐる人たちがいます。

近年、災害復興を始めとして社会福祉や国際交流、文化活動、子ども支援など広くボランティア活動が活発になってきました。今では行政による支援の隙間を埋めるものとして不可欠なものになっています。助けを必要とする人の力になりたいという気持ちは多かれ少なかれ誰もが持っていると思いますが、そこに社会経験と学問的背景が加わるとその支援力は更に大きくなるでしょう。一般の大学に比べると学生の年齢層が厚い放送大学の強みだと言えるかもしれません。そんな志を抱いて放送大学で学ぶ学生のみなさんは実に頼もしく輝いて見えます。私などが「還暦を過ぎて記憶力が衰えて……」などと言つたら、「何を情けない青二才が」と叱られそうです。

今、興味のある放送授業や面接授業を少しずつ受講しています。職員と学生二足のわらじを履いているわけですが、日々学生のみなさんから刺激を受け、半年来ごとに新しくなるわらじの方は当分脱げそうにありません。

【特別寄稿】

学友会にぎたつ会会報から

動物の「ことば」と人間のことば

全科履修生 人間と文化コース 榎元 朗

平成二十九年六月二十四日。

札幌駅から歩いて約十五分、左前方に森が見えてきた。二十mを超えるポプラの並木が続く北海道大学である。

北海道学習センターは五階、教室は六階。五階の談話室で時間を待っていると、六階の教室から出席をとる声が聞こえてきた。急いで六階に上がり教室へ入ったところ、出席を取り終え授業が始まっていた。

私は「十時からだと思っていて遅れてすみません。愛媛から来ました」と遅れたことを詫びた。教壇に立つ白髪交じりの教授は、「いいですよ。どうぞ。北海道は夜明けが早いので、九時三十分から授業開始です」

と快く受け入れてくれた。

授業科目は「動物の『ことば』人間のことば」である。「動物の『ことば』」とはどんな言葉なのだろうと興味をもって授業を受ける。「動物の『ことば』」とは、どうも動物（含む人間）におけるコミュニケーションのようである。

授業は、レジュメとアテンボローのビデオによる授業。その内容は、

動物はどのような方法・手段でコミュニケーションをしているのか？

コミュニケーションの目的としては何なのか。であった。

色々なコミュニケーションの説明があったが、興味を持ったのは、ミツバチが蜜のある場所を仲間知らせる八の字ダンス。

相手に攻撃態勢を示したがこれが間違いであったと気づいた犬の動作は、前足で地面を搔いて照れ隠しをする事。

ホタルの性的コミュニケーションは、地上（葉など）にいる雌は空中を飛んで点滅をしている雄に対して、

同種の点滅パターンを送り、雄を地上に引き寄せ交尾しその後雄を食べてしまうこと。などであった。

二日間の面接授業についての感想としては、動物のコミュニケーションは、マズローの欲求段階説「生理的ニーズ（生きる上での根源的欲求）のためのもの」であると感じた。

動物のコミュニケーションの基本は、現実の事態に対応し、目の前に危険がある、餌がある、威嚇する、求愛するなど、目に見えている範囲のコミュニケーションしか行わない。

具体的事例として、大部分の鳥の雄は飾り羽をまとい、華麗なダンスを舞い、雌鳥を獲得しようとする。

ライオンを中心とした猛獣の雄は、格闘により強さを示し、雌は強い子孫を残すためこれを選び、交尾が終われば雄に全く関心を示さなくなる等、常に雌が中心の世界のような気がした。

人間のコミュニケーションは、動物のコミュニケーションをベースに、相手に自分の意思を正確に伝えるための具体的なものとして「言葉」「文字」が生まれた。そしてより感情を伝えるための精神的な要素が多く

を占めており、その結果現代の文化を築いたものと考えられる。人間と動物の相違が見えたような気がした。

授業で困ったことは、私は適温だと感じていたのに、エアコン（冷房）をかけられたことだ。教授に「寒いのですが」というと、教授はちょっと不思議そうな顔をして「寒いようでしたらエアコンを切ります」と言われたが、見回してみると生徒は誰一人寒そうな様子でなかったので希望を取り下げた。

北海道に住んだことのある学友の増田稔さんによると、北海道に数年住んでいると外気温に対する発汗作用が変化するらしく、発汗作用の働き始める温度帯が違ってくるのとのことだった。

確かに、私が涼しくて気持ちが良いと感じる温度でも、ハンカチで汗をぬぐっている人を見かけることがあった。ここは北海道なのだ。すっかり自分がどこにいるのか忘れていた。

県外での面接授業は、新しい出会いがあり楽しいものだ。

今回の面接授業も、私が面接授業を受けることを知っていた大阪の女性に出会ったり、元大学教授の奥

さんから北海道の田舎の暮らしを教えてもらったり、お土産をもらったりとても楽しいものだった。

また、機会をとらえて県外面接授業に挑戦したいと思っている。

※この記事は、学友会にぎたつ会会報「まどんな」第七十六号から転載しました。

放大生よ、大志を抱け！



広大な北海道、奥は札幌ドーム

第三部 放送大学に関する情報

放送大学Q&A

Q アナウンサーや技術者など、放送局で働

く専門家を養成する大学ですか？

A いいえ。誰でもがテレビやラジオの放送

やインターネットによって学ぶことができます

る通信制の大学です。しかも、十五歳以上

であれば誰でも入学することができます。

Q 入学試験はありますか？

A 教養学部は入学試験がありません。また、

四月と十月に入学することができます。

Q 卒業すれば「学士」になれますか？

A 四年以上在学し、所定の単位を修得すれ

ば、学士（教養）の学位を取得することができます。

できます。

Q 「学士」を目指す場合、入学には高卒の

学歴が必要ですか？

A 十八歳以上であれば、高校を卒業してい

なくても、所定の科目十六単位以上を修得

すると教養学部に入学することができます。

Q 仕事の都合で単位認定試験を受けられな

かった場合、再試験はありますか？

A

学生に有職者が多いため、仕事の都合で受験できなかった方々の利便を図るため、次学期に学籍があれば、再試験を受験することができます。

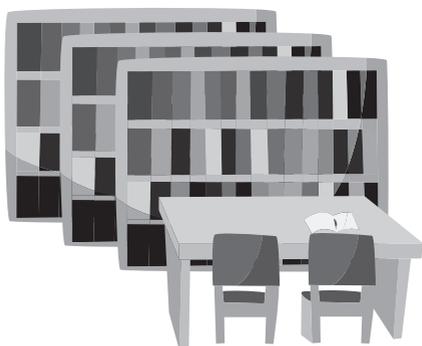
Q

テレビやラジオ、インターネットを利用して授業を受ければ、全く通学しなくても卒業できますか？

A

単位認定試験は学習センターで実施しますので、来所する必要があります。

また、学習センターの講義室で教員から直接指導を受ける面接授業もありますので、ぜひ学習センターに足を運んでください。



放送大学とは

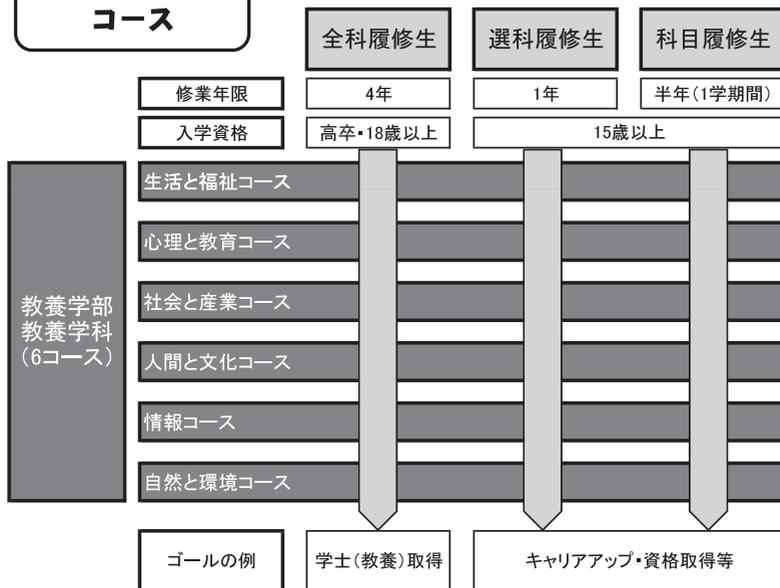
放送大学は、テレビやラジオ、インターネットを通じて学習できる通信制大学・大学院です。昭和60年から学生を受け入れ始め、これまでに150万人以上の学生が放送大学で学び、学位を取得した卒業生・修了生は10万人近くに及びます。

10代の若い世代から、60代、70代あるいはそれ以上のシニア世代まで、幅広い年齢層の人々が自分の目標を定めて授業を受けています。

放送大学のあらし

学生の種類とコース

※これは放送大学教養学部に関する説明です。大学院修士課程、博士課程に関する情報は放送大学のホームページをご覧ください。



放送大学に関する更に詳しい情報は・・・

- "http://www.ouj.ac.jp/" をブラウザに入力
-  QRコードをスマホで読取り
-



放送大学

放送大学の
ホームページで

学習システム

第1学期	第2学期	放送授業	オンライン授業	面接授業(スクーリング)
		テレビまたはラジオで授業を行います(一部を除きインターネットでも配信)。1回45分の授業を15回行います。第1学期と第2学期の授業内容は同じです。※すべての科目に印刷教材が用意されます。	インターネット上で提供される諸情報による学修をし、双方向性を生かした設問解答、課題解答及び討論への参加により授業を行います。※ご自身でパソコンの用意等が必要です。	学習センター等で他の学生と一緒に教員から直接指導を受ける授業です。 放送授業では体験できない実験・実習等もあり、学友と共に学ぶ楽しさを共有できます。
4月	10月	放送授業	オンライン授業	面接授業
5月	11月	通信指導 ★	通信指導及び単位認定試験を実施する科目もあります。	各学習センター等で実施
6月	12月			
7月	1月	単位認定試験 ★★		
8月	2月			
成績評価				
9月	3月			
単位修得				
所定単位修得・4年以上在学(全科履修生のみ)				
卒業・学位(学士)取得(全科履修生のみ)				

通信指導 ★	各学期途中に1回一定の範囲で出題されます。郵送またはインターネットで答案を大学に提出し、添削結果により単位認定試験の受験資格が得られます。
単位認定試験 ★★	各学期の放送授業が終了した後、各科目について学習センター等で試験を実施し、合格した学生に単位を認定します。なお、登録した科目が、単位認定試験不合格または未受験の場合、科目登録した学期の翌学期に限り再試験を受験できます。(全科履修生、選科履修生は翌学期に学籍がある場合のみ。科目履修生は在学期間が1学期間ですので、再試験を受けるためには再度出願することが必要です。この場合、入学のみ必要となり、再履修科目の授業料は不要です。)

愛媛学習センターについて

愛媛学習センターは、面接授業や単位認定試験を行うほか、放送教材の再視聴の場などを提供しています。また、こうした学習の場としてだけでなく学生のふれあいの場として積極的に利用し、より充実した学生生活を送るための施設でもあります。

主な業務

- 面接授業の実施
- 単位認定試験の実施
- 放送教材の再視聴機会の提供
- 図書閲覧・貸出
- 学習上の各種相談への対応
- 公開講演会の実施
- 証明書等の発行
- その他学生の福利厚生業務への対応

愛媛学習センターの利用時間

期 間	月	火	水	木	金	土	日
通常期	閉	10：00～18：30				9：30～18：00	
単位認定 試験期間中	所	9：00～19：00					
閉所日	1 月曜日 2 国民の祝日・休日 3 年末年始 4 臨時閉所日						

スタッフ

所長及び客員教員が、在学生や放送大学への入学を考えている方の学習相談に応じています。

所長、客員教員の氏名や専門分野などは愛媛学習センターのホームページで紹介していますのでご覧ください。

なお、相談ご希望の場合は、あらかじめ愛媛学習センターへご連絡ください。

また、教務や図書・放送教材の管理などを担当する事務職員がいます。入学手続や学費、諸手続、放送教材の視聴など、学生生活全般の相談に対応しています。お気軽に学習センター窓口で相談ください。

放送大学愛媛学習センター

所在地 松山市文京町3番 愛媛大学城北キャンパス内

電話 089-923-8544

FAX 089-923-8479

E-mail ehime-sc@ouj.ac.jp

ホームページ <https://www.sc.ouj.ac.jp/center/ehime/>



○事務室

授業の履修に関すること、各種事務手続き、証明書の発行などを行います。個別の学習相談にも応じますので、気軽にお越しく下さい。

○講義室、実習室、多目的室

面接授業、単位認定試験、個別学習、サークル活動等に使用します。また、実習室にはノート型パソコンを設置しており、面接授業等で使用する場合を除き、使用することができます。

○視聴学習・図書室

視聴を希望する科目の個別学習ができるよう、ブースを備えています。また、図書の閲覧・貸出を行います。

○学生交流スペース

学生の皆さんが自由に利用できる憩いの空間です。新聞・雑誌・パンフ類も備え付けてありますので、自由に閲覧してください。

○コインロッカー

使用料は無料です。利用には一〇〇円硬貨が必要ですが、硬貨はロック解除後自動的に返却されます。ロッカーの利用は当日限りです。これを超えて長期にわたって使用中の場合は事務担当者が解錠します。

修学上の特別措置

心身の障害のために特別措置が必要な方の相談に応じています。これまでに実施した特別措置は次のとおりです。

○学習センター利用全般

- ・ 車椅子での入室
- ・ 介助者の帯同 など

○単位認定試験

- ・ 別室受験
- ・ 試験時間の延長（五割増し）
- ・ 監督員による解答の転記
- ・ 点字や音声での出題 など

これらは一例です。ご相談により可能な範囲で特別措置を講じています。

単位認定試験

単位認定試験は、愛媛学習センターで実施します。試験の前に放送大学本部から受験票、時間割などが届きます。自分が受験する科目の時間に筆記用具、学生証など受験票に記載されたものを用意して受験してください。単位認定試験の実施時期は、第一学期が七月の下旬、第二学期が一月の下旬です。土日には駐車場をご利用いただけます。駐車場については、あらかじめ機関誌にてお知らせします。

放送大学のパンフレットスタンド設置場所

●東予地区

- ・今治市：中央図書館、波方図書館、中央公民館
- ・西条市：東予図書館、西条図書館、中央公民館、小松公民館、総合文化会館
- ・新居浜市：別子銅山記念図書館、市民文化センター、愛媛県総合科学博物館
- ・四国中央市：三島図書館、川之江図書館、土居文化会館

●中予地区

- ・松山市：中央図書館、北条図書館、愛媛文教会館、アイテム愛媛、松山市総合福祉センター、愛媛県生涯学習センター、愛媛県立図書館、^{おひさまいち}太陽市
- ・東温市：市立図書館
- ・松前町：ふるさとライブラリー
- ・砥部町：文化会館
- ・久万高原町：町立図書館
- ・伊予市：市立図書館

●南予地区

- ・内子町：図書情報館
- ・大洲市：市立図書館、ふれあい会館、国立大洲青少年交流の家
- ・西予市：宇和文化会館、野村町中央公民館、愛媛県歴史文化博物館
- ・八幡浜市：市民図書館、保内図書館、総合福祉文化センター
- ・伊方町：町立図書館
- ・宇和島市：中央図書館、南予文化会館、市民センター、きさいや広場

面接授業・公開講演会

面接授業は、全国の学習センターで教員から直接指導を受ける授業（スクーリング）です。愛媛学習センターでは一科目につき一時間二十五分の授業を八時限、集中的に二日間で行います。

公開講演会は、愛媛学習センターの所長、客員教員が講師となつて土曜日又は日曜日に開催します。どなたでも参加いただけます。日程は、愛媛学習センターのホームページのほか、県内各地に設置したパンフレットスタンドのチラシをご覧ください。

学生団体（サークル）の活動

放送大学では、学生が勉学やスポーツ活動等のため、学生団体（サークル）を結成して互いに啓発し合い親睦を深めています。

愛媛学習センターで活動している学生団体（サークル） ※平成二十九年十月現在

- にぎたつ会（学友会）
- 合気道同好会
- 合気道S・A同好会
- アリスの会（手芸サークル）
- 英語サークル
- 英会話ビギナー会
- コーラス同好会
- ゴルフ同好会
- サイクリング同好会
- 茶道サークル
- 山学同好会
- 俳句サークル
- 美術同好会
- マジックサークル
- パソコンふれあいサークル



サークルに関する情報は、愛媛学習センターのホームページでご覧いただけます。

放送大学や愛媛学習センターに関する様々な情報を掲載しています。

○掲載情報の一例

- ・ 教員紹介
- ・ 公開講演会
- ・ 面接授業一覧
- ・ 資料請求
- ・ インターネット出願
- ・ 週間番組表
- ・ サークル紹介
- ・ アクセス



機関誌「坊っちゃん」も掲載しています。

HOME 🏠	この学習センターについて 🏢	スケジュール・授業案内 📅	各種お手続き 📄
-----------	-------------------	------------------	-------------

愛媛学習センター

学びたい！あなたの学習を支援します！

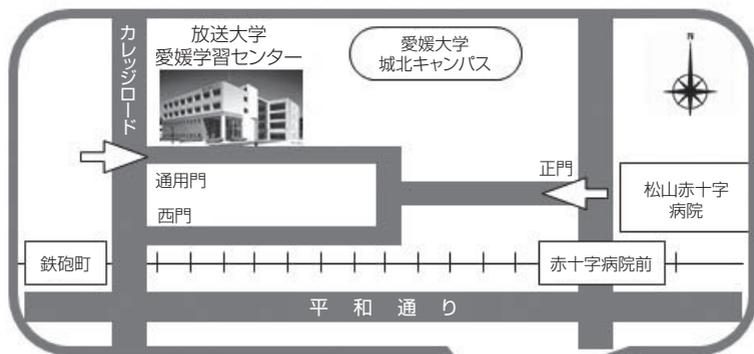
放送大学は文部科学省と総務省が所管する通信制の正規の大学です。通信制の大学の長を活かし、大学卒業資格（学士）の取得、大学院修士・博士の取得、キャリアアップ、専門知識の修得、生涯学習など、自分の目的に合わせて、また自分のペースで学ぶことができます。現在、愛媛学習センターでは1,000名を超える方が熱心に、また楽しく学生生活を送っています。皆さんも一緒に学んでみませんか。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/ehime/>



愛媛学習センターの見学を歓迎します。あらかじめ電話等でご連絡の上、お越しく下さい。放送教材を実際に視聴し、印刷教材を手にとつていただくこともできます。

愛媛学習センター案内図



● 交通案内 ●

- JR松山駅から 伊予鉄道市内線①乗車→約15分→鉄砲町下車 徒歩3分
- 松山空港から リムジンバス乗車→約15分→JR松山駅前下車 ↑上記参照
- 松山観光港から リムジンバス乗車→約20分→JR松山駅前下車 ↑上記参照
- 伊予鉄道松山市駅から 伊予鉄道市内線②乗車→約15分→鉄砲町下車 徒歩3分
- 三津浜港から 伊予鉄道バス「56松山市駅行き」乗車→約30分→松山市駅下車 ↑上記参照

放送大学愛媛学習センター

所在地 松山市文京町3番 愛媛大学城北キャンパス内

電話 089-923-8544

FAX 089-923-8479

E-mail ehime-sc@uj.ac.jp

ホームページ <https://www.sc.uj.ac.jp/center/ehime/>

